

宮城県における高齢者のがん罹患の実態について

P1-8



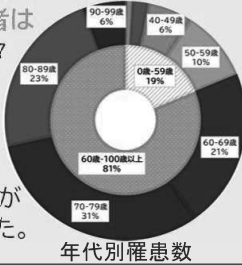
目崎はる香¹ 佐藤洋子¹ 齋藤美登里¹ 植野由佳¹ 三上亜紀¹ 金村政輝^{1,2}

¹ 宮城県立がんセンター宮城県がん登録室

² 宮城県立がんセンター研究所がん疫学・予防研究部

【目的】

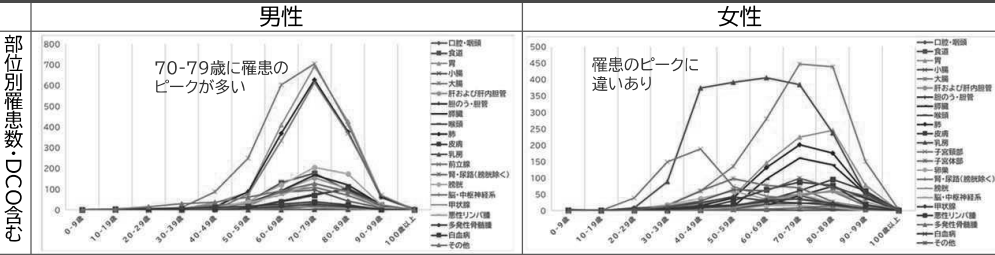
- 宮城県の65歳以上の高齢者は総人口の約3割を占め、年々増加傾向である。
- 2020年診断のがん罹患数は60歳以上が8割である。
- 高齢化が進む中、高齢者のがん罹患にどのような特徴があるか把握するため調査した。



【方法】

- がん登録推進法第18条に基づき提供を受けた匿名化情報を用いて集計
- 集計対象は、2020年診断で、上皮内がんを含む男性11,237件、女性8,855件とした。
- 10歳階級毎に、部位別罹患数、発見経緯、進展度(治療前)及び初回治療の実施割合を集計

【結果】



発見経緯割合・DCO含む

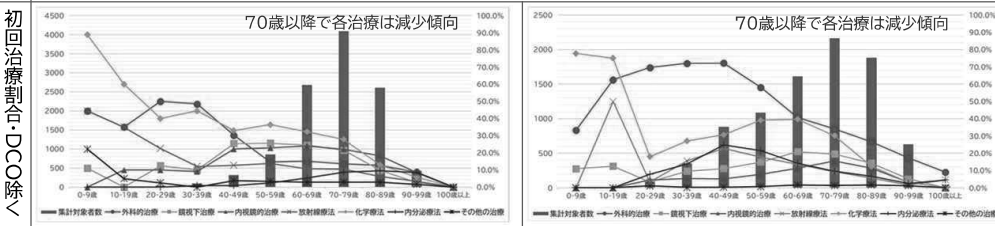
年齢	がん検診・健康診断等	他疾患の経過観察中の偶然発見	別検発見	その他(自覚症状含む)	不明	DCO
100歳以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
90-99歳	22.5%	31.5%	11.8%	34.9%	16.0%	15.4%
80-89歳	3.0%	43.1%	0.8%	43.1%	4.1%	1.7%
70-79歳	16.4%	43.8%	0.8%	39.3%	2.7%	0.4%
60-69歳	26.6%	34.1%	0.8%	38.2%	1.6%	0.2%
50-59歳	31.4%	21.5%	0.8%	43.3%	1.0%	0.3%
40-49歳	31.2%	24.7%	0.8%	41.0%	1.3%	0.0%
30-39歳	12.1%	14.1%	0.8%	72.7%	3.0%	0.0%
20-29歳	50.0%	22.5%	0.8%	20.0%	2.8%	0.0%
10-19歳	50.0%	20.0%	0.8%	25.0%	0.0%	0.0%
0-9歳	0.0%	22.2%	0.8%	77.8%	0.0%	0.0%

がん検診等の割合が男性は50歳代、女性は40歳代をピークに年代が高くなるにつれて減少し、自覚症状を含むその他の割合が増加した。

進展度割合・DCO含む

年齢	上皮内	限局	領域リンパ節転移	隣接臓器浸潤	遠隔転移	不明	DCO
100歳以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
90-99歳	2.4%	30.5%	6.8%	9.3%	16.5%	31.0%	0.4%
80-89歳	2.3%	41.0%	6.5%	10.3%	17.2%	19.5%	0.1%
70-79歳	2.5%	47.2%	6.2%	11.6%	16.3%	13.0%	0.4%
60-69歳	2.0%	49.2%	6.9%	9.8%	17.8%	12.2%	0.2%
50-59歳	6.6%	43.0%	6.0%	12.7%	17.3%	14.0%	0.4%
40-49歳	9.2%	45.7%	6.3%	12.5%	11.2%	18.1%	0.4%
30-39歳	2.4%	49.5%	0.6%	17.6%	13.2%	16.8%	0.8%
20-29歳	0.0%	44.1%	11.8%	14.7%	11.8%	17.6%	0.0%
10-19歳	0.0%	43.2%	0.0%	5.9%	29.4%	17.6%	0.0%
0-9歳	0.0%	62.5%	0.8%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%

上皮内は、男性は全年代で10%未満だが、女性は20歳代の47.1%をピークに、年代が高くなるにつれて減少傾向。遠隔転移は、男性は50歳代、女性は60歳代~90歳代でほぼ一定だが、不明やDCOの割合が80歳代~90歳代にかけて増加傾向



初回治療実施の有無割合・DCO除く

年齢	①観血的治療あり	②化学療法等のその他治療あり	①②の併用治療あり	初回治療なし
100歳以上	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
90-99歳	16.9%	16.1%	0.3%	65.1%
80-89歳	34.2%	31.7%	2.6%	31.3%
70-79歳	42.5%	29.4%	12.0%	16.2%
60-69歳	46.4%	27.9%	12.6%	13.0%
50-59歳	48.3%	22.2%	10.9%	18.6%
40-49歳	48.5%	21.7%	9.1%	20.7%
30-39歳	50.0%	22.5%	22.5%	25.0%
20-29歳	30.0%	55.6%	11.1%	0.0%
10-19歳	33.3%	55.6%	11.1%	0.0%
0-9歳	11.1%	55.6%	22.2%	11.1%

初回治療なしの割合は男女ともに年代が高くなるにつれて増加し、逆に①観血的治療、②化学療法等のその他治療、①②の併用治療は減少した(①観血的治療あり:外科的/鏡視下/内視鏡的治療、②化学療法等のその他治療:化学/放射線/内分泌/その他治療)。

【結論】

- 発見経緯や進展度等の項目毎に集計することで、宮城県における高齢者のがん罹患の特徴を把握することができた。
- 今回は、全部位の単年集計であり、がんは部位によって、好発年齢や検診の有無、標準治療が異なることから、より詳細な特徴を把握するためには、部位別に集計する必要があると考えられた。

日本がん登録協議会
第34回学術集会 COI開示
筆頭演者名: 目崎 はる香
当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。